

11月26日  
市川市長選挙

# みんなの願いは どうなった？

大久保市政の8年間で、市民サービスの削減や、市民負担増などで市政のゆがみが…。主なものを検証しました。

## 子育て

### 保育園に入れない待機児童数 全国4番目に多い



市川市の保育園待機児童数は576人（4月1日）3年連続増、全国でも4番目に待機児童が多く、市民から「子育てに冷たい市政」との声も。保育園を増やし、保育士確保にもっと力を入れるべきです。

## 介護保険

### 特養ホーム待機者増、介護保険料 9年間で約1.4倍に



3年ごとに改定される介護保険料。基準額の保険料では9年間で1.4倍の値上げです。保険料は年金から天引きされ、特別養護老人ホームは足りない。市民には大幅な負担増と給付削減が押し付けられています。

## 市民負担

### スポーツ施設等使用料が3倍の 値上げで市民活動が萎縮

市民の所得が減っているのに公民館やスポーツ施設等の使用料約3倍に値上げ。長時間施設を使うスポーツサークルなどの負担増はたいへんなもの。市民活動が萎縮し、サークル活動を中止する影響も出ています。



## 公共施設

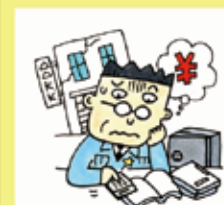
### 八幡市民談話室の廃止など、 市民の声を聞かない市政

本八幡駅に近く、300団体が利用していた八幡市民談話室。公共施設の再編計画の一環として、廃止を決めて、各団体に説明。こうした市民や団体の意見を聞かない市政に批判の声が…。



## 経済

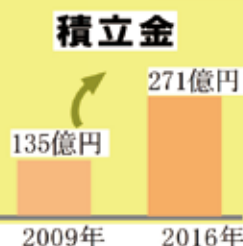
### 競争入札で市内業者の契約36% 労働者の労働条件も悪化



市職員を減らし、民間委託を推進。業務委託では競争入札により、市内業者との契約件数は36%。公共サービスで働く労働者は最低賃金水準です。市内業者育成と、労働者の待遇改善が必要です。

## 財政

### こんなに増えた積立金。もっと くらし充実に使えるはず



市は市民負担を増やし、市民サービスの削減をした結果、積立金は8年間で136億円増えました。市川市の財政健全度は、全国813市区中、24番目。もっと市民に還元すべきです。

## 市政アンケートへのご協力 ありがとうございました

毎年行っている党市議団の「市政アンケート」に11月1日現在、1303通の回答が寄せられました。ご協力に感謝いたします。ここ数年と比べてくらしは苦しくなったが47%。

市川市政に望む施策は右記の通りで、高齢者福祉の充実や、公共料金の引き下げ、子育て支援を求めている方が多数でした。



### Q3 市川市政に望むことを選んでください（5項目を選択）

① 高齢者福祉の充実	642
② 国民健康保険税の軽減	406
③ 自転車のマナー対策	398
④ 公共料金の引き下げ	385
⑤ 医療費の窓口負担軽減	384
⑥ 生活道路・公園の整備	350
⑦ 保育園の待機児童解消	310
⑧ 子どもの貧困対策	271
⑨ 医療体制の充実	261
⑩ 防災・減災対策の充実	256



（出典：党市議団の市政アンケートから作成。回答数1303人時点）



# 市政の抜本的転換を 日本共産党市議団は主張してきました

9月市議会でも

## 子育てしやすい市川に

- 認可保育園の緊急増設で、待機児童をゼロ。保育士の賃金など処遇改善
- 放課後保育クラブの待機児解消、支援員の処遇改善
- 子どもの医療費負担の軽減（所得制限無くし、窓口負担軽減）
- 教育費負担の軽減、いじめのない学校づくりや、教師の多忙化改善



## 住み慣れた地域で老後を楽しく

- 特養ホームの増設で、待機者ゼロ。介護職員の処遇改善
- 高齢者・障害者が必要とするサービスの提供
- 介護保険料・利用料の負担軽減
- 国民健康保険税の軽減
- コミュニティバスの充実など高齢者の外出支援



## 情報公開と市民参加で 安心・安全な街づくり

- 徹底した情報公開と、市政への市民参加を進める
- 市民活動を支援、公共施設の使用料の引き下げ
- 防犯灯のLED化、市が一括リース方式で促進
- 公営ギャンブル券場外売場に反対
- 生活道路の改修、歩道の段差解消
- 緑地の保全、生物多様性の保全



## 雇用の拡大、中小業者支援

- 市内業者の育成と、市内業者の仕事確保
- 公契約条例を制定し、末端労働者まで賃金の引き上げを図る
- 住宅リフォーム助成の予算拡大
- 商店対象のリフォーム助成の創設
- 非正規労働者の処遇改善
- 若者、高齢者の雇用の拡大を図る



**党市議団、政務活動費の領収書を全面公開**  
切手の大量購入が問題となった市川市議会。日本共産党は独自で今年度分から政務活動費の領収書をすべて党ホームページで公開しています。



市民と懇談する党市議団。左から廣田徳子・桜井雅人・金子貞作市議



「公共施設のあり方を考える」学習会に党市議団も参加、参加者と意見交換しました。

市政を変える力は市民との共同です。  
日本共産党市議団は、毎議会前に市政懇談会を開催し、意見や要望を聞いてきました。また、政務活動費を使い全戸に市政アンケートを配布し、広く市民の意見を伺ってきました。  
そして他会派のみなさんとも安保法制（戦争法）反対の宣伝を駅前で行ってきました。市議会では市民の声を議会で取り上げ建設的

な提案をしています。  
**市民との約束は絶対に裏切りません**  
日本共産党は「市民が主役」の立場で議会活動を行っています。共同を求める市民との約束は絶対に裏切りません。



現市政の継続でなく、市民のための  
**「いちかわ超改革」**

**市民と力合わせ政治を変える**